

【目次】

1. 友愛会創立を記念する会が中止に、代わりに「記念の集い」を開催、8月1日！
2. 企画展「総同盟から総評へ」のポイント、総評はなぜICFTUに加盟しなかったのか！
3. 連載「日本労働会館物語」第80回—ジョサイア・コンドルその2—！

1. 友愛会創立を記念する会が中止に、代わりに「記念の集い」を開催、8月1日！

日本労働運動の出発点である友愛会（1912.8.1、鈴木文治により創立）の意義を顕彰するための会合が毎年8月1日に友愛会創立を記念する会（高木剛会長）の主催、連合の後援で開催されてきました。しかし、108回目の今年は新型コロナウイルスへの対応のため中止となりました。



このため同会事務局を構成する日本労働会館と友愛会館の関係者有志により8月1日（土）12時30分より、「友愛会創立を記念する集い」が友愛労働歴史館研修室で開かれました。「集い」では高木剛会長のメッセージの確認、物故者への黙祷などが行われました。

友愛会創立を記念する会・2020年式典・パーティーの中止について（メッセージ）

本年も8月1日に友愛会創立を記念する会の記念式典及びパーティーを開催すべく、幹事会の皆さんに準備を進めて頂いて居りましたが、新型コロナウイルスの感染状況等に鑑み、中止という判断に至りました。どうぞ中止に至りました背景等ご賢察賜りたく存じます。

本年、2020年は友愛会創立以来、108年目の年を迎えています。大正元年の創立以来、友愛会は労働組合主義、切磋琢磨の労使関係と労働協約の重要性に関する認識の労使共有、産業民主主義、労働者福祉の向上等を標榜しつつ、日本の労働運動の源流としての評価を得、今日の連合に至る日本の労働運動の歴史のページを刻んできました。

時移り、人変わろうとも、運動のルーツ、基本哲学等守り続けなければならないものは堅持し、新しい時代の流れに沿って変えていかなければならないものは勇を鼓して変えていく、この両面を踏まえ乍ら、日本の労働運動の不断の前進に思いを至す契機とするため、友愛会創立を記念する会の活動を続けているということだと存じて居ります。

残念乍ら、本年の記念式典等は中止いたしますが、友愛会創立を記念する会の運動の本旨は今後とも堅持していくこととお誓いし、併せて新型コロナウイルス禍の収束のためのワクチンの早期開発を待望し、皆様の組織と仲間の皆さんのご健闘をお祈り申し上げ、2020年式典中止等に当たってのメッセージとさせていただきます。

2020年8月1日

友愛会創立を記念する会

会長 高木 剛

2. 企画展「総同盟から総評へ」のポイント、総評はなぜICFTUに加盟しなかったのか！

友愛労働歴史館は現在、企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ—1946～1950年の労働運動—」（2020.7.6～12.8）を開催しています。

戦後の日本の労働運動はGHQによる民主化、労働運動の解放によりスタートし、1946（昭和21）年に総同盟と産別会議（全日本産業別労働組合会議）が誕生します。産別会議は戦後労働運動を

主導しますが、1947年の2.1スト失敗や同4月の参議院選挙・衆議院選挙での日本共産党の敗北を契機に、共産党の組合支配に反対する民主化運動が起きて1950年に総評が結成されます。

企画展は総同盟・産別会議の結成から新産別・総評の結成までの5年間（1946～1950）を中心に日本労働運動について解説していますが、ポイントの一つは総評の国際自由労連 ICFTU 加盟問題です。第二次大戦後、世界は西側自由主義国と東側共産主義国が対立し、「冷戦」状態にありました。1950年には朝鮮戦争が勃発しています。総評結成当時の国際労働運動も東側・世界労連 WFTU と西側・ICFTU が対立しており、総評は ICFTU 加盟を基本に結成されます。

しかし、翌51年の第2回大会で総評は「平和4原則」を確認するとともに、ICFTU 加盟を否決します（三分の二の賛成がなく）。「ニワトリ（親西側）からアヒル（反西側）」になったと評されました。要因は色々考えられますが、直接的には当時 ICFTU 加盟組合の国労と日教組が反対したからとされています。これにより総評は国際労働運動と一線を画することになります。

その後、総評から ICFTU 系組織が離脱して全労・同盟を結成するなど、いわゆる労働4団体（総評・同盟・中連・新産別）の時代に入ります。総評は日本最大の中央労働団体として屹立し、その影響力から「昔陸軍、今総評」と呼ばれましたが、その運動は特殊日本的なものになりました。

結成から40年後の1989年、総評は ICFTU 加盟を決定し、連合（総評・同盟・中連・新産別が統合）に合流します。第1回大会で加盟を確認し、第2回大会で加盟を否決して特殊日本的労働運動を歩んでから40年、ようやく総評は原点回帰したのです。

3. 連載「日本労働会館物語」第80回—ジョサイア・コンドルその2—!

「日本近代建築の父」と呼ばれ、今年が没後100年のジョサイア・コンドル（1852～1920）は、東京帝大を退任後に建築事務所を起し、キリスト教会や三菱・岩崎家にかかわる建造物を数多く設計しています。これらの作品群の中でユニテリアン教会・惟一館（現友愛会館）と同じ1894（明治27）年に作られたのが、三菱一号館（現三菱一号館美術館）や神田青年館（東京YMCA会館。左写真）です。「神田の青年館」として親しまれた赤いレンガ造りの建物は関東大震災で崩壊しましたが、その後に再建されています。



惟一館で1912（大正元）年に友愛会が創立され、日本労働運動発祥の地となりました。友愛会は総同盟へと発展した後、1930（昭和5）年に惟一館を買収して日本労働会館とします。今年には日本労働会館90周年なのです。総同盟は1936（昭和11）年、若手モダニズム建築家・山口文象（1902～1978）に依頼し、友愛病院・アパート青雲荘を建設します（左写真参照）。



友愛労働歴史館は惟一館建設から120年後の2014年、企画展「コンドルと惟一館、山口文象と青雲荘」（2014.3.10～8.30）を開催し、コンドルと山口文象を顕彰しています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL.050-3473-5325

Eメール yuairekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairekishikan.com>

惟一館から125年、友愛会から107年